

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 小石 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

I. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問調査

児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の6年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	本市の正答率と比較するとやや下回った結果となっている。 「読むこと」に関する内容については理解できていると考えられる一方で、「話すこと・聞くこと」「書くこと」に関する内容については課題が見られる。
	よくできた問題	情報の扱い方に関する事項（聞き取ったことを整理する力に関する問題）
	努力が必要な問題	漢字の問題、「話すこと・聞くこと」（インタビューでの質問の意図を読み取るなど問題）
算数	全体的な傾向や特徴など	本市の正答率と比較するとやや下回った結果となっている。 知識・技能と思考・判断・表現の両観点での課題が見られる。
	よくできた問題	測定の領域（容器内の液体の量を測定する方法を考えるなどの問題）
	努力が必要な問題	数と計算の領域（整数や少數、分数の四則計算や計算のしかたを考えるなどの問題）
理科	全体的な傾向や特徴など	本市の正答率と比較するとやや下回った結果となっている。 知識や技能についての理解に課題があり、それに伴い、思考・判断・表現の観点における正答率が低い傾向が見られる。
	よくできた問題	記述式の問題、「地球」を柱とする領域（土壌への水のしみこみ方に関する問題）
	努力が必要な問題	「生命」を柱とする領域（植物の成長や発芽条件に関する問題）

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概

質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none">自尊感情について問う質問（自分には、よいところがあるか）に関して、肯定的な回答をした児童が7割で、全国の割合を下回った。日々の学校生活における児童どうしの認め合いの場や一人一人の活躍の場を設定するなどして、基本的・社会的自尊感情の高まりにつなげたい。将来の夢や目標の有無を尋ねる質問に関しても下回っている。学級活動などの学習や学校生活の様々な場面で、一人一人が活躍する場を設定したり、キャリア教育の内容を充実させたりして、継続的な指導にあたっていく。ICTに関して、学習の中で児童用端末を活用しているかという項目について、9割近くの児童が肯定的な回答を示し、全国平均を上回っている。しかし、文章作成や情報収集などの技能が身に付いたと回答している児童は全国の割合をやや下回るので、継続的な指導を続けていく。学習への主体性（課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んできたか）に関する項目では、8割を超える児童が肯定的な回答をし、全国平均を上回った。家庭学習に関して、平日の1日当たりの学習時間は3時間以上が1割、2時間以上が1割、1時間以上が3割弱と全国の割合と同じような結果となった。家庭学習の時間と質の確保については、児童への指導と保護者に向けた啓発を計画的に図っていきたい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・全ての教科の学習において、基礎基本的な知識・技能（漢字や計算、用語の意味など）の確実な定着を目指し、日々繰り返し指導していく必要がある。また、問題文をしっかりと理解して、それに合った計算や解答につなげたり、自分の考えを整理してまとめたりする力を持つための指導を続けていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習の意義や方法については、日常的に継続的な声掛けをしたり、学級活動（3）などで指導をしたりしていく。また、学校・学級通信を活用して家庭への啓発も行う。
